

令和 7 年度改選 候補者広報

(記載はアイウエオ順)

令和 7 年 5 月 23 日 一般社団法人三重県作業療法士会 選挙管理委員会

代表理事候補	佐藤 明俊 (さとう あきとし) この度、理事・代表理事に立候補させて頂きました、鈴鹿回生病院の佐藤 明俊と申します。私は平成 10 年に作業療法士になり、就職とともに当院が県士会事務局を担っていた関係から事務局員を担い、その後平成 14 年には広報部副部長になり、平成 15 年から理事（広報部長）として県士会に携わってきました。平成 18 年には事務局長、平成 23 年からは副会長兼事務局長と、長期に渡り県士会を支えてきました。気づけば理事の半分も 20 年以上のキャリア者が増え若手がまだまだ少ない状況にあります。私が代表理事になりましたら、現在の部局の副部長に活気のある若手を招集し、5 年以内に部長、副部長を若手に任せ、我々ベテラン理事は補佐に回りながら、より良い活気にある県士会にリニューアルしていきたいと考えております。また、会員のニーズなどを取り込めるようなシステムの構築を行い、会員が県士会と繋がることで、日々の臨床の不安や疑問を解決するとうな関係性を築き上げていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願い致します。
理事候補	(1)伊藤 正敏 (いとう まさとし) 私はこれまで、作業療法士として病院や地域におけるリハビリテーション業務に従事してまいりました。その中で強く感じたことは、「地域の中で継続的にリハビリを受けられる仕組みの重要性」です。 今後、地域包括ケアの推進とともに、専門職が地域に根ざして活動する必要性はますます高まっています。地域リハビリ活動の推進のため、会員の方々が必要な情報と研修の開催や行政や他職種と連携しながら、住民一人ひとりが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる支援体制を構築していきたいと考えております。 会員の皆さまのご支援を賜りながら、地域リハビリのさらなる発展に尽力してまいります。何卒、よろしくお願い申し上げます。
	(2)上野平 圭祐 (うえのひら けいすけ) 私は 8 年間三重県士会理事兼・福利部部長として会員の皆さんの交流の場となるイベントの企画・運営、倫理相談窓口業務に従事してきました。今年度からは財務部部長として活動をしています。県士会員の皆さんからお預かりした年会費を基によりよい三重県士会の運営を目指していきたいと考えていますので、よろしくお願いいたします。
	(3)大塚 美奈子 (おおつか みなこ) 県士会行事の企画運営に携わったのは、2 代目会長の永田会長のもと平成 6 年の 10 周年記念行事でした。その後、選挙管理委員 3 年、監事 6 年、作業療法技術検討委員会 1 年、作業療法推進部長 6 年 渉外部長 10 年努めてまいりました。 現在渉外部として三重県作業療法士会の魅力を広く知っていただけるよう行政や企業様、また学

	校関係の方々にお知らせし双方にとってメリットになるための活動を目指してまいりました。今期を最後に理事に立候補し、今後の作業療法士の活躍を推進するために、皆様からご意見・ご要望を頂戴しまとめ、三重県及び国へ向けて要望書提出の準備にも取り組みたいと思います。三重県作業療法士会に対してのご理解とご協力をいただき、県士会員の皆さんと賛助会員様・関係団体様との繋がりをつくりたいと考えます。
	(4)島崎 博也 (しまさき ひろや) 私は平成 14 年度より三重県作業療法士会啓発部に所属しており、平成 29 年度より理事として活動しています。作業療法士が地域貢献を担う職種として必要とされるために、啓発イベントや公開講座、高校生作業療法体験・見学会を実施しています。 三重県作業療法士会におけるリハレンジャーのキャラクター活用として、LINE スタンプ作成やグッズを用いた啓発活動を行うことができるように整えております。 また、次世代の作業療法士を発掘する為に 1 番重要な啓発活動である「高校生作業療法体験・見学会」については、高校生や施設の皆様より大変好評であり、継続的に実施していきたいと思えます。県民の方に対しては、公開講座など通して作業療法士の職種の知名度向上や、活用していただけるよう、様々な視点で啓発していきたいと考えます。 今後も、県士会員の皆様が作業療法士として様々な所で活躍でき、満足いただけるよう理事として誠心誠意活動していきたいと思えます。
	(5)富中真悟 (とみなか しんご) 今回、教育部部長に立候補しました、三重県立総合医療センターの富中真悟です。近年の診療報酬制度はとても複雑で医療者がこなさなくてはならない業務が増えています。それは作業療法士への期待の裏返しではないかと考えます。関係省庁からの要望に応えるための手段の一つとして新生涯学修制度が始まります。 日本作業療法士協会は標準的な作業療法士の質と量を担保していくことを目指しています。魅力ある、そして選ばれる作業療法士を新生涯学修制度を活用して会員が活躍できるように日本作業療法士協会と連携をとり、三重県作業療法士会に情報提供できるように努めたいと思えます。 三重県作業療法士会会員への力になれるように精進していきたいと考えています。よろしくお願いいたします。
	(6)渡邊誠 (わたなべ まこと) このたび、三重県作業療法士会 理事に立候補させていただきます、藤田医科大学七栗記念病院の渡邊誠と申します。 これまで、理事および広報部長として、県士会のさまざまな活動に携わってまいりました。その中で常に感じてきたのは、作業療法士という専門職が、他の医療専門職と比較して社会的認知が十分とは言えない現状です。臨床の現場においては、私たちの役割が徐々に理解されつつありますが、一般社会においては依然としてその認識は限定的であると考えております。今後は、県士会の一員として、作業療法士の専門性や社会的意義をより広く発信し、その認知度の向上に努めてまいりたいと考えております。特に、将来を担う若年層への啓発活動にも注力し、次世代の育

	成と作業療法の発展に貢献していく所存です。微力ではございますが、誠心誠意努めてまいりますので、何卒ご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
	(7) 牧野 有華（まきの ゆか） この度、一般社団法人三重県作業療法士会の理事に立候補しました牧野有華と申します。 組織部長として昨年度まで8年務めさせていただきました。取り組んだことは県士会の組織編成を見直し統合したこと、県士会活動協力調査を実施し興味のある活動につなげたこと、県士会活動を知っていただくため研修会を開催し会長や副会長と会員が直接話す機会を作ったこと、東海北陸地区7県合同のリーダー養成研修会への参加者の調整などです。 「組織」と聞くと何だか悪いイメージを持たれる方もいるかもしれませんが、組織とは「共通の目的を達成するために、役割を分化し、協力し合う人々の集まり」という意味です。 作業療法士の共通の目的は、日常生活を送るのに現在支障をきたしている方だけでなく、将来的に障害が予測される方に対してもリハビリテーションを提供することです。そのために会員の皆様の力を借りながら一緒に取り組んでいきたいと思います。
	(8) 宮坂 裕之（みやさか ひろゆき） 「作業療法の専門性を発信し、会員の技術力向上に取り組む」 作業療法の分野・業務は多岐にわたります。私は直近の4年間、運転と作業療法委員会の委員長を務め、運転支援に関わる分野での専門性について情報を発信してきました。 県士会理事として、作業療法士の活動をアピールするとともに、士会員の知識・技術の向上のための活動を進めていきたいと思います。 今回、引き続き、理事に立候補させていただきますが、法人の理事として微力を尽くしたいと思います。よろしくお願い申し上げます。
	(9) 山本 泰雄（やまもと やすお） 理事に立候補いたしました山本泰雄です。 これまで、地域貢献を目的とした事業部や地域リハビリテーション部での活動に携わり、地域とのつながりを大切にした取り組みを続けてまいりました。 現在は學術部を担当し、分野別の研修会の企画運営や学会の開催サポートを通じて、会員の皆さまの学びや交流の機会を支えています。 今後は、研修会や勉強会を通じた学術的な支援をさらに充実させるとともに、日々の実践で感じる悩みや工夫を気軽に共有できるような、安心して語り合える場づくりに取り組みたいと考えています。また、若手の方々が自信を持って成長していけるような環境づくりにも力を入れていきます。 これまでの経験を活かしながら、皆さまとともに歩んでいければ幸いです。何卒ご支援のほどよろしくお願いいたします。

監 事 候 補	(1)田中 一彦（たなか かずひこ） この度、監事に立候補しました田中一彦です。 県士会活動には、平成6年より理事として、渉外部長、組織部長、副会長の任をつとめ、平成27年からは会長として10年間県士会業務を遂行してきました。 一般社団法人三重県作業療法士会は、今年で創立40周年の節目を迎えます。 この40年間で会員数も増え活動場所も拡大されてきました。 また、行政、関係団体からの業務依頼も増加し作業療法士への期待が高まっています。 作業療法士会の更なる発展のためには、世代交代も進めながら、新しい人材の登用、会員の積極的な参画が必要となってきました。 会員と社会のニーズに対応出来る組織を支えるべく、監事としての職務に取り組んでいきたいと思ひます。 よろしくお願い申し上げます。
	(2)橋本 昌弘（はしもと まさひろ） この度、監事に立候補いたしました橋本昌弘と申します。 三重県作業療法士会では、渉外部部長、事務局長、会長、監事を務めてまいりました。その経験を活かし、作業療法士会の運営が将来に向けて、活発かつ適正になるように意見を述べていく所存です。どうぞよろしくお願い致します。